

明石市立大蔵中学校だより「2021年11月8日(第139号)」

書あり 師あり 友ありて

素晴らしい75回生修学旅行でした！

学校長 平田 高之



75回生の修学旅行については、5月に沖縄へ行く予定が新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない状況のため、8月26日から舞鶴・滋賀・京都方面での2泊3日の平和学習・体験活動・班別行動の修学旅行に変更しました。さらに、感染拡大のために、1泊2日に変更しての実施を検討している中、8月20日に緊急事態宣言が出され、再度11月3・4日に延期しての実施となりました。

しかも、2学期に入り体育大会、10月22日の文化発表会に向けての取組、さらに出発前日には実力テスト、修学旅行の取組時間をほとんど取れないタイトなスケジュールにもかかわらず、75回生は本当に見事な行動で、「さすが大蔵中生！」という素晴らしい修学旅行にしてくれました。

今回の修学旅行の大きな目的の一つである平和学習のために「舞鶴引揚記念館」を訪れましたが、1年生から沖縄での平和学習に向けて総合的な学習の時間を中心に力を入れて取り組んできた成果が十分発揮されていました。グループ別に語り部の方の講話、館内見学、平和集会の組合せだったのですが、講話や説明を真剣に聞く姿勢がとても素晴らしく、語り部の方から大変褒めて頂きました。平和集会では、各クラス代表による平和宣言、文化発表会でも展示しました折り鶴アート作品の奉納を行なったのですが、すべてリーダーが進行して、3年間の取組の集大成といえる会となっていました。

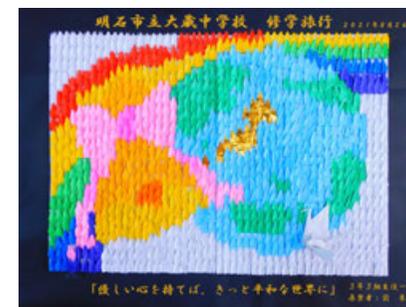
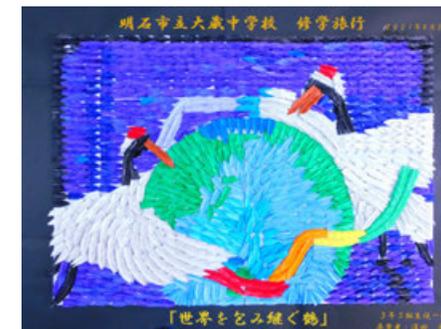
小学6年生の時に広島に行き原爆の悲惨さは学んでいますので、それをさらに発展させるために、本校ではこの学年から、修学旅行の行先を長崎から沖縄に変更したのですが、変わらない平和学習をできたと思っています。私にとって、引揚記念館は初めて訪ねた施設で、10月7日が最初の引揚船が舞鶴に到着した日であることを記念する日になっていることも知りませんでした。広島・長崎や沖縄戦のことは、その時期になるとマスコミでも取り上げられるのですが、このことについては取り上げられる機会が少なく初めて知った生徒も多かったと思いますので、その点でも有意義だったと考えています。

3年5組の〇〇さんが折り鶴アートのデザインの意味を平和集会で説明していたのですが、とても素晴らしい内容でしたので紹介させていただきます。

私たちは、この折り鶴アートに世界中の人が優しさでつながり合い一つになってほしいという思いを込めました。平和を祈る思いで作られてきた折り鶴。それが、本物の鶴となって守っています。片方の鶴は大きく羽を広げてかばうように、もう一方は羽で包み込むように地球を守っています。そして、その手には虹色のリボンが握られています。このリボンのように、さまざまな色を持った世界中の人々が一つになって繋がってほしいという願いがあります。

そして、そのリボンをつなぐ役割となるのは、私たち日本です。二羽の鶴のくちばしの先は日本を指し示しています。世界をつなぐ役割を任せられています。戦争を通して私たちが知った平和。その実現のために、私たち日本から、人を思う心を広めていこうという決意を込めました。

世界中の人々が、自分のことだけでなく、周りを思いやり、全員で地球を守っていけるそんな世界になることを願っています。



その後の天橋立及び2日目の京都では、今回の修学旅行のもう一つの大きな目的のグループ・班別活動でしたが、リーダーを中心に、75回生の大きな特徴である、男女仲良くお互いのことを考えながら活動をしてきていました。75回生は、お互いを思いやる気持ちのある生徒が多く、体育大会でもその場面が見られました。それは、朝一番の吹奏楽部のマーチングが終わり、吹奏楽部の生徒が学級席に戻ってきた時に、3年生のどのテントからも大きな拍手が自然と湧き上がり吹奏楽部の生徒たちを迎えていてとても感動させられました。

また、75回生はとても自慢の生徒たちですので、添乗員さん、バスの運転手さん、訪問先の施設やホテルの総支配人様への最初のご挨拶では「本校の生徒はしっかりしていますので、ご迷惑をかけることはないと思います。」と話をさせて頂きましたし、実際に「本当に素晴らしい生徒さんたちですね」と褒めて頂きました。

バスの中、夕食や朝食で前を向いての黙食等、修学旅行での大きな楽しみが制限されている中でも、そのことをきっちり守ってくれ、集合時間に遅れる生徒もありませんでした。教員が大きな声で注意しなくても、実行委員、班長、各係代表の生徒たちが、自分たちできちんとしようと呼び掛け、気を付けて行動してくれていましたし、そのリーダーたちが前に出た時には全員がしっかり話を聞いていました。これらのことは、修学旅行中だけしようとしてもできないことで、2年半の積み重ねの成果が発揮されたことであり、本当に素晴らしい生徒たちに恵まれたことへ感謝させられる2日間でした。

解団式では、学年主任の岡田から2日間を振り返る中で、75回生全員が参加できなかったことに触れて、卒業証書授与式では全員が出席できるようにしたいという話がありました。3月16日まで中学校生活も残り5か月となりましたが、75回生がさらに成長し、中学校卒業後にそれぞれの場所で夢の実現のために力を発揮できるよう、引き続き教職員一同力を注いでまいります。今回の修学旅行の実施につきましてご理解ご協力頂き本当にありがとうございました。